

体外受精法を検討している患者への支援

～冊子「体外受精法による治療を検討されているご夫婦へ」の有用性の検討～

◎村上純子¹⁾ 田邊加代子¹⁾ 小松原千暁¹⁾ 辻勲¹⁾ 福田愛作¹⁾ 森本義晴²⁾

1) IVF 大阪クリニック 2) HORAC グランフロント大阪クリニック

【目的】当院で独自に作成した冊子「体外受精法による治療を検討されているご夫婦へ」は、ART 検討中の患者から受ける様々な質問に対し実際に当院で ART を受けた患者の体験や意見をまとめている。本研究の目的は、冊子の有用性を検討する事である。

【方法】2019 年 4 月～8 月に当院の体外受精法説明会に参加したカップル 113 組を対象に、冊子と共にアンケートを配布した。アンケートは 14 項目の記述式で、調査内容の匿名性保持を保証した上で学会発表する旨を記載し、同意の上回答された質問用紙を回収した。また本研究は当院倫理委員会の承認を得て実施している。

【結果】アンケート配布 113 組、回答 71 組 (62.8%) であった。体験談を「必要」とするカップルは 57 組 (80.3%) で、読みたい時期は、割合が多い順に「初診時」20 組 (28.2%) 「医師から ART を推奨された時」17 組 (23.9%) 「人工授精法治療中」15 組 (21.1%) で、治療経過の様々な時期に分布していた。自己で情報する方法は「WEB」が最多で 59 組 (83.0) %、注目する内容は「ブログ」43 組 (60.6%) 「費用」39 組 (54.9%) だった。冊子を「2 人で読んだ」カップルは 41 組 (57.7%)、「冊子を機に話し合いが増えた」は 22 組 (31.0%) だった。

【考察】体験談を必要と考えるカップルは 8 割あり、ART を検討している患者にとって冊子内容は必要な情報と評価できた。また 5 割のカップルが 2 人で冊子を読み、3 割が治療について話し合いが増えたと答えた事より、冊子が患者の治療選択の意思決定支援の一助となると考えられた。また冊子内容には費用についての情報が必要であると示唆された。【今後の課題】冊子を配布するだけでなく WEB 等の利便性の高いツールを利用すれば、不妊治療の初期段階から ART 直前まで幅広い患者層が必要に応じ手軽に閲覧できると考えられるので、費用内容の点を考慮し改善したい。